



日本民族総福音化は可能か

日本民族総福音化運動協議会理事
 関東ブロック長
 フルゴスペル四街道教会 牧師

織田 宏彦



勿論、不可能です。何となれば韓国民族総福音化運動をもつてさえ、クリスチャンは国民の三十〜四十%という現状です。全世界的大リバイバルの国でさえそうであるのに、ましてやこの日本においては余りにも現実とかけ離れたビジョンでありま。ではどのように理解すれば良いのでしょうか？日本の教会が世に対してある程度存在感を示し、意見を述べることでできるものになる可能性は了解できます。しかし、さりとて難解なことです。ただ一つ言えることは、偉大な神の驚くべき介入があった時に初めて可能となり得ます。これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。(ゼカリヤ四章六節)

神の介入に備える事柄
 一、人本主義から神本主義へ

(意識改革)

知的満足に偏ったクリスチャン生活から、御言葉を実践し体験するクリスチャン生活への移行が急務であります。確かに真理は人を自由にするから非常に尊ぶべき事柄であるが、御言葉を如何に単純に信じ、如何に実行するかを追求するのであつて、神学的知識は普通のクリスチャンには余り必要とされてい。ないのである。そのことは神学博士や教授に委ねていけば良いではないか、一般の庶民的レベルに如何に御言葉を適用するかが大きな問題なのである。実際の生活上の問題に介入した御言葉による解決法をもっと追求するのが伝道の拡大に繋がっていくのではないか？人的レベルで人を見、問題を見ていくのは罪深いことであり、神の視点で問題を如何に捉えていくかが本当

の問題解決になり、一般の人々が求めてやまないことであります。

日本にキリスト教が最初に入ってきた時、その対象は上流階級の医者・弁護士などが中心でした。一方韓国にキリスト教が最初に入ったのは、米屋・豆腐屋・魚屋などの下層階級でしたから、彼等が実際の生活に役立つことにしか関心がありませんでした。経済的な必要、病の癒し、人間関係等に如何に神の祝福が及ぶかに関心がありました。今こそ、人間中心の第三次元的なもの、捉え方から、神中心の第四次元的なもの、捉え方に意識が変わる必要があるのではないのでしょうか(マタイ六章二三節・ローマ十二章二節)。

窓のカーテンを開けて初めて部屋の中のゴミがよく見えるのと同じように、祈りを通して天

が開かれ人格のゴミが掃除されないかぎり、聖書の学びだけでは、神学だけでは、議論だけでは人格のゴミを付けたままで変わりようがない。私たちは、このゴミが取り除かれ、人格が砕かれて初めて神の御前に大胆に立つことができます。私たちの考え方が変わらなにかぎり、私たちの内なる至聖所（霊）から聖所（魂）を通って庭（肉）へと神の力が流れないので。ですからこの魂の部分は徹底的に砕かれなければなりません。つまりは、人本主義的な考え方から徹底的な神本主義的な考え方へ移行するためには、日々十字架を負う、つまり自己に死ぬし、かありません。（ヤコブからイスラエル）そうすれば、一致は必然的に出来るし、リバイバルは必ず訪れるのです。

二、しるしと不思議のミニストリー
 “神の国は言葉だけでなく、力である”（第一コリント四章二〇節）とある。日本において御言葉だけの宣教は一四〇年間も行なわれてきた。しかしこれでは未信者に対するアピールが少ない。二千年前のイエス様の宣教の業は、言葉だけでなく、御言葉に伴う “しるしと不思議” をもって自分が神の子であることを証しされました（マルコ二章九、十一節）。イエス様こそ生ける

る神の子キリストであること、未信者に周知させるためには、奇跡の業をもって大胆に証しし、福音宣教がなされなければならぬ。四福音書を見ると、その三分の二は病の癒し、悪霊追い出し、奇跡の業をもってイエス様は宣教を進めておられます。まして、私たち信じる者が何の奇跡をも伴わずに宣教することはおこがましいかぎりである。日本のリバイバルは奇跡のミニストリーによって可能となるのです。

三、福音理解

最大の奇跡は魂が救われること。これは神様が一番望んでおられること。「行って、あなたがたが見聞きしたことを、ヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はききまり、耳しいは聞え、死人は生き返り、貧しい人々は福音を聞かされている」（ルカ七章一二節）。信仰によって、恵みによって、神様の一方的な愛によって泥沼から救い出されて、永遠の命が与えられ、神の家族の一員とされた。これは素晴らしい祝福であり、恵みであります。のほすなかに長い年月の間についてしか律法的なクリスチャンになり、律法的な教会に陥り、日々の歩みの中ではキリスト教の倫理・道徳の面だけを重視し、やがては天に行くことができる

信じているクリスチャンが余りにも多いのではないでしょうか。イエス様の救いは全人格的なものであるから、われわれの魂が救われるだけでなく、われわれ自身が全く変えられて、環境が変えられて、また病が癒されて、如何に日々圧倒的な勝利をもって生活しているかが、リバイバルのために問われます。十字架の贖いの中にはこれらすべてのことが含まれているのです。あまりにもひ弱なクリスチャンであっては、世の光、地の塩と

しての働きが世の人に対してどれほどアピール出来るでしょうか？
 私もそのような情けないクリスチャンのひとりですが、リバイバルに向け、世にあって十字架の贖いの恵みを十二分に体験させていただき、神をいつも喜ぶ聖徒になり、今も生きておられるイエス様を体験しつつ、感謝、賛美の日々を送らせていただきたいと思います。

《お知らせ》

2006年度・後期

理事 ブロック長会議

日時 ■ 2007年1月15日（月）
 14時～ 理事会（理事のみ）
 18時～ 食事・懇親会（理事とブロック長）
 19時～ ブロック長会議（理事も出席）
 1月16日（火）
 12時～ 執行部会議
 場所 ■ ウェルシティ大阪（大阪厚生年金会館）
 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目14-15
 TEL 06-6532-6301 <http://kapara.jp/>

オープンセミナー

講師 ■ 有賀喜一師
 全日本リバイバルミッション代表、
 リバイバル聖書神学校校長
 主題 ■ 「私の日本救済構想」
 日時 ■ 2007年1月16日（火） 10時～12時
 会場 ■ ウェルシティ大阪（大阪厚生年金会館）
 会費 ■ 1,000円
 ※オープンセミナーはどなたでも参加できます。